

織田道八(頼長)作竹茶杓 刀による削ぎ目に注目!



美濃伊賀 耳付花入



織田道八(頼長)手造 茶碗



紺糸威 朱漆塗 総髪形兜

左門頼長が遊女にかぶらせて、大坂城中をまわった兜と相手のもの

関ヶ原合戦の後、世が落ち着きつつあった17世紀初頭、「かぶき者」と呼ばれる人たちが出現しました。彼らは異様な風体をし、常軌を逸した行動で知られる存在でした。その「第一」といわれたのが織田信長の甥にあたる織田左門頼長(道八)です(『当代記』)。現在では、漫画の影響で「かぶき者」といえば前田慶次の名を思い浮かべる人が多いでしょうが、歴史に埋もれた第一人者が存在していたのです。今年は織田左門の没後四百年に当たります。それを記念して、本展では左門にゆかりの茶道具や書状を中心に、彼の父で茶人として名をなした織田有楽の茶道具を展示します。

一般的には「かぶき者」という範疇でとらえられていない古田織部ですが、彼は慶長4年(1599)毛利秀元を招いた茶会で歪み茶碗を用いました。その時の相客の神屋宗湛は「ヘウケモノ也」と驚きの言葉を発しました。それは織部が好んだ茶碗がかぶっていた証といえるでしょう。本展では数寄(茶の湯)の世界の「かぶき者」ともいえる古田織部好みの茶道具も、併せて展示します。

主な展示品

- ・織田頼長筆 書状(六通)
- ・織田木瓜紋蒔絵 黒台子
- ・有楽好 青貝蒔絵茶器
- ・有楽所持 扇子形 矢立硯
- ・かぶき公家供揃図
- ・北野風俗図屏風
- ・直江兼統筆 漢詩「寒夜」
- ・(備前国長船住)清光造 刀
- ・美濃 灰釉南蛮人燭台
- ・織部 南蛮煙管(五点)

桃山一の かぶき者とは誰か?

慶次か左門か、
それとも織部か?

—織田左門頼長(道八)没後四百年記念—

2020年 **5月30日(土) - 9月13日(日)**

May 30th, - September 13th, 2020

9:30~17:00 (入館は16:40まで) 月曜休館(祝翌日休館) 後援:京都市、京都新聞

大人500円 / 大学・高校生400円 / 中学生以下300円 / 未就学児無料 / 団体(15人以上)100円引

一般財団法人

古田織部美術館

The Museum of Furuta Oribe

古田織部美術館

検索 click



京都市北区上賀茂桜井町107-2 地下1階 TEL: 075-707-1800

市営地下鉄烏丸線北山駅下車4番出口右折徒歩3分 / 京都市バス「植物園北門前」徒歩3分

(タクシーでお越しの場合) JR京都駅より30分 / 京阪出町柳駅より10分 / 阪急河原町駅より20分

次回予告

織部と
利休七哲たち

9/17 ~ 2021/1/19

